索引発掘

地上げ屋

恒例の変わりびな発表会が十一月十七日東京・上野の「真多呂人形」で開かれた。来日旋風を巻き起こしたマイケル・ジャクソンにマドンナ、サラダ記念日の俵万智など話題の人物に混ざって、驚いたことに「地上げ屋横行びな」が登場した。ひな人形のイメージからはほど遠いが「世相を見る上で主婦を脅す地上げ屋は避けて通れなかった」との製作者の弁。地上げ屋なるものが世の中に横行しているという感を改めて強くした。

地上げ屋という言葉が雑誌の誌面を賑わせるようになったのは、大宅文庫の索引によると昨年の秋からだ。それ以前はほとんど誌上に姿を見せなかった地上げ屋が、ここにきてなぜ注目されはじめたのだろう。

考えられることは、まず第一に、近年の異常な地価の高騰とその一因としての地上げ屋の活躍である。ここ三、四年の地価上昇は、かつての列島改造ブームの時を上回る狂乱ぶりだ。第二に、犯罪すれすれの彼らの手口。時には刑務所に入ることも覚悟の上だそうで、脅しはもちろん返事次第では監禁暴行、死なない程度のひき逃げ、ダンプカーで建物に突入し、最近では放火や殺人疑惑まで起きている。これでは話題にならないほうが不思議だ。そして第三は、彼らの所得額とその伸び率である。例えば、東京都から国土利用計画法違反で警視庁に告発された最上恒産は昨年百八十六億円余の法人所得を申告し、前年比伸び率が実に三千七百四十九パーセント、非製造部門で日本一だそうだ。

なるほどこれが魅力で地上げ屋になるのだろうが、資金を持たない地上げ屋が存在するためには、存在できる環境が必要である。そしてその環境作りに協力しているのが、地上げ屋に融資する金融機関や土地を買い上げる大手企業なのである。

最近ようやく東京都心の地価上昇は沈静化に向っている。新行革審による土地問題特別委員会が審議を開始し、警察当局は地上げ犯罪の集中摘発に乗り出し、金融機関も地上げ屋への融資に対し自粛する方針を決めたためだ。今頃になって…という思いは否めないが、派手な立回りで注目をあびる地上げ屋の背後の巨大な影を見落とさずに、抜本的な対策を立て土地問題を根本から解決して欲しいものである。

さて、この土地の高値に都内（とその周辺）に住宅を持つなどということは夢のまた夢になってしまったあなた、「山里はもののわびしきことこそあれ世の憂きよりは住みよかりけり」（古今集）この際脱都会といきませんか。

＜収録項目＞大項目【経済】中項目〔物価〕小項目「地価・土地問題」

＜参考資料＞現役地上げ屋が語る恐怖の手口『創』,87・9／他　（T・A）

霊感商法

「手相を無料で見てあげます」―婚期の遅れ、家庭内不和、商売不振など誰にでもある悩み、心の不安。これを先祖や水子のたたりに結びつけ、印鑑を始めに壷、多宝塔を買わせて巨額の金をまきあげ、家・土地にまで狙いをつける。その被害たるや二年半で一万件、四十億円にものぼっているというのである。

同じ詐欺でも、金や株は「利殖を生む」という期待感があるものだが、霊感商法は、そんなものとは無縁なのである。被害者は、自分のお金がつきると販売員として養成され、売ることがお客を救うことと信じこみ、新たな被害者にとりつくかたちで広がっていく。

「鰯の頭も信心から」の見え隠れする販売のノウハウは、「ヨハネトーク」なるマニュアルに基づき、霊力を有した先生とその弟子を演じ、掛け合い漫才よろしくお客に迫るようになっている。「地獄、呪い、因縁」と言ったオカルト用語を駆使し、精神的不安、たたりへの怯えにつけこむのである。出家するかわりに、「いのちの次に大切なお金を神に捧げる」ことによって、不安をとり除き、運を開くことができると語らせるのだ。集められた金は、宗教団体の資金源となるようであるが、使い道がどうであれ買う＝神に捧げることで、信じる者は救われた気になるのであろうか。

最近の霊感商法追放キャンペーンは、背後にある宗教団体から派生して、スパイ防止法潰しのために仕掛けられたもの―という見方もされている。

いずれにせよこれからは、健康食品や教育、薬品業界にしても、人の不安をかきたてて商売をする脅迫産業がのさばる時代なのだそうだ。霊感商法の被害者は女性、それも主婦が八割方を占めている。自分の生命、財産は自分で守るという意識が稀薄な日本人。狙い目は、中高年の場合「もう少し幸福に」という欲求であり、若者は「充実した本当の生き方をしているか」と問うところにある。金持ちで、信仰心の厚い日本人は、もう少しの幸福も、充実した生き方も、「いのちの次に大切なお金」で買おうというのである。

＜収録項目＞大項目【世相】中項目〔商売〕小項目「インチキ商売」

＜参考資料＞霊感商法の巨大な被害『朝日ジャーナル』,86・12・5／私が騙された〃霊感商法〃の口説き文句『週刊ポスト』,87・3・27／財テクブームで被害続出〃霊感商法〃の悪らつぶり『週刊読売』,87・4・12／霊感商法の冷血手口！ああたたりに怯えて私は家まで失った！『微笑』,87・6・13／日共系弁護士を総動員〃霊感商法潰し〃の目的は〃スパイ防止法潰し〃という左翼勢力の「不純な動機」『ゼンボウ』,87・7／霊感商法が映し出した心の闇『世界』,87・7～8／他　（K・T）